

# 入賞作品紹介



③

## 小学生の部親子賞 優秀賞

読む知る学が

# E!新聞

### 新聞取り

田村市 郡司 幸さん  
関本小3年

私の家にとごけられる新聞は、県道から自たくへ入る所の「新聞入れ」と書かれた青いふくろに入っています。雨の日は、新聞がぬれないようにナイロンぶくろに入っていて、とても親切です。私が新聞を取りに行く時は、お父さんにたのまれた時です。「お願いします」と言われると、「え」と言ってしまうんです。なぜ私が取りに行かなければならないのかと、いやな気持ちになります。それは多分、約五百メートルきよりのあるからだと思います。

そんな気持ちでも新聞取りに行くことになり、全力で走って行って来る時、お父さんのまわりを見ながら歩いてきます。きせつによつては、どんぐり、山ぼうし、くりなどが道の上

あり、虫と遊んだり、すや野うさぎ、たかを見たこともあります。虫や動物たちを見て、わくわくした気持ちになつていつの間にか家に帰って来ていました。

今は、新聞を読むことはありませんが、ジュニア新聞が入ってくる時々、絵をおうぼしている小学生の所を見ています。私もぜひおうぼしてみたいと思います。

ジュニア新聞の中で、とくに「コシをする」と頭がよくなるのコーナーをさんごうにしています。いろいろなヒントが書いてあるので、おもしろいです。なかなか実行できないけれど、読んでなるほどと思います。早起きできることを書いてほしいです。これからた

### 新聞はバスに乗せられやってきました

母 郡司 千春さん

私が小学生の頃に住んでいた所は、とても奥深い山間部でした。今思うと、めずらしい新聞配達の方法だったと思います。

その方法とは、新聞だけが路線バスに乗せられて来るのです。始発のバスに乗せられて途中

のバス停で乗り換えられ、私の住んでいた地区へと届けられるのでした。

朝一番のバスでしたので、六時前には自宅の前を通過するのをひたすら待っていました。バスのドアが開き、ステップを駆け上がり、私は運転手

さんより新聞を受け取りました。運転手さんによつては、あいさつが怖い人などがいて、当時受け取りに行くことを拒否した記憶があります。

そして、学校に行く途中に二軒分の配達がありました。休日には、ポストではなく直接自宅へ届けました。お正月には、広告・新聞の厚みもあり、ずっしりとした重みを感じました。でも私が配達に行く時、「ありがたう」と言われ、お年玉がもらえたので悪いことばかりではありませんでした。

今では、新聞を読む立場になり、毎朝新聞が届き情報を頂けることが当たり前になってしまいました。新聞が来るバスを自宅前で休まず待っていたり、わずかに二軒分はありますが、新聞を配達したり。私も「人と新聞」のつながりを介して少しではありますが、人のためになつていたのかなと思えました。

今は新聞を取ってくる仕事を娘が担っています。私とは違って短い距離ではありますが、その五百メートルの中もいろいろなことを感じているようで、うれしく思います。

深夜も新聞業務に携わっている方々に感謝です。